

自己評価表

- 自己評価表は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービス成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないに関わらず事実を記入。)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 ルーク
(ユニット名)	グループホーム ソフトハンド
所在地 (県・市町村名)	秋田県秋田市新屋勝平町10番30号
記入者名 (管理者)	加藤 潤
記入日	平成22年2月16日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所内では入居者様のこれまでの生活リズムを大切にするという目標を職員全員が把握しサービスを提供しています。実際、ご利用者様の中で同窓会に参加されたいなどの社会参加をご家族のご協力の下に外出されているなど、自由に生活できるよう配慮しています。	同窓会への参加・友達との交流の自由
2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を掲示すると共に月二回行われる会議により理念の共有が常に出来ている。	月二回の会議
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の人々に対し、又、ご入居者とそのご家族に対し口頭での説明と、パンフレットの配布によりよく理解して頂いている。(町内会の皆様に配布)	パンフレットの配布
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のご老人が現在もお茶を飲みに着てくださっています。	立ち寄りやすいよう日頃から挨拶を欠かさずしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動としては5・6・7・8月に行われる、地域のお祭りなど積極的に参加し交流できている。	日吉神社祭り・鹿島祭り・勝平神社祭り・コミュニティーセンター祭り・花火大会・他施設での行事参加等

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>現在は遊びに来てくださっているご老人に対して、生活へのアドバイスをしたり、バイタルチェックサービスをしたりしています。</p>		日頃から、介護の相談等も受けています。運営推進会議でも皆様の意見をもとに取り組んでいます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>過去の評価に対しても、真面目に改善へ向けて行動し、自分たちのサービス向上へと繋がることを職員全員が理解している。</p>		さらにサービス向上に向け取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議は開催し、利用者様とその家族、また、地域の皆様にご意見を頂き、それを活かしたサービスを行っています。</p>		定期的に行いサービス向上を目指しています。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>都度、依頼や相談事のある場合は行き来し、適切な対応をしている。</p>		気軽に電話連絡できるよう人脈を確保している。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>理解をできる様説明はしているものの研修等には参加できていないが、実際に話を進めているケースがあります。</p>	○	研修参加を職員にしてもらう。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>虐待防止に対し徹底し周知している。また、日頃から会議等で話し合い出来ている。また、虐待防止マニュアルを作成し対応している。</p>		職員のストレスを解消できるよう親交会などの開催を行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居者様とご家族に対し管理者が十分に口頭と書面にて説明した上で、理解・納得していただいている。	契約書・重要事項説明書による書面と口頭で野説明。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を自由に言える環境づくりをしている。現在でご家族も、外部の方からも意見をいただけるように、意見箱の設置を行い、その意見に対し速やかな対応をし運営に反映させている。	面会時の職員とのお茶会・意見箱の設置・24時間受付窓口の設置。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の定期受診結果は電話連絡し、健康診断の結果も写しを送付し報告している。また、職員配置に対しても都度、連絡し口頭での説明をしている。	都度、電話連絡と証明書の送付。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置し迅速な対応をしている。	面会時の職員とのお茶会・意見箱の設置・24時間受付窓口の設置。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等は職員を主役とし皆で決めた内容を反映させている。日頃から意見交換できている。	月二回の会議開催。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	会議等は職員を主役とし皆で決めた内容を反映させている。日頃から意見交換できている。	月二回の会議開催。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職した場合は他職員と話し合い、ご利用者様に対し影響の最小限になるような声かけをしようにしている。		心配しないよう気晴らしのできるように配慮し声が消している。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役所等からの研修に参加するように促すも、なかなか参加できていないのが現状です。それに対し、研修会議を設け、職員から研修したい内容・議題を出してもらい職場内での研修にて補っている。	○	研修会議、来年度の研修参加計画作成し、各研修への積極的参加。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、計画作成者は独自のネットにより交流できている。職員同士の交流も、少しずつではあるが出来ている。	○	グループホーム協会等への参加。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が現場に出ることで日頃から意見交換を気軽にできるよう様配慮し環境づくりをしている。		常にストレス解消に努めるよう努力し親交会を開いている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年次有給休暇のほかに、各自必ず消化しなければいけない特別休暇を設けている。又、希望の公休は100パーセント対応できている。技術向上に向けたやるきを出した職員には研修費の支給など最大限のバックアップをしている。		夏季・冬季特別休暇、公休の希望消化、健守秘の支給。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者と計画作成者が初期段階でヒアリング面接をしている。	ヒアリング面接。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その通りに実行している。出来るだけ多く、また、依頼がある都度、話し合いを儲けている。	ヒアリング面接。相談受付。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成者であるケアマネージャーとの話し合いも合わせ、的確な判断をしたうえで支援できている。	待機中の他サービスへの対応。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	常に職員同士で話し合い、また、家族の協力も得て、その人が安心できる環境を提供している。	慣れるまでの家族との交流。馴染みの家具の持ち込み。入居前の他利用者への紹介とご家族の挨拶。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者同士でも職員とも、お互い出来ることを把握しあい、助け合えるよう環境づくりをしている。	出来ることを継続するために各担当の仕事を割り振りしている。同じうちに住んでいると遊興間を持てるように、皆で行う作業を多く提供している。調理手伝い、掃除、余暇活動。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃からの相談受付と共に、本人との状態を常に情報交換し、ご家族も一緒になって支援できている。		外出・外泊が円滑にできるように情報交換。状態に合わせた話掛けや対応をご家族と共に考えて対応している。寂しがるとご利用者様への対応や外出したがるご利用者様への対応等。行事参加や面会等。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の関係を大切にし、面会時間制限の無い取り組みをすると共に、行事への参加や、遠方にいるご家族との手紙のやり取りなどを進めている。		行事参加、面会時間の制限を無くしている。外出・外泊の自由、手紙のやり取り、電話等。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間制限の無い取り組みをすると共に、行事への参加や、遠方にいる友達との手紙のやり取りなどを進めている。		同窓会への参加、行事参加、面会時間の制限を無くしている。外出・外泊の自由、手紙のやり取り、電話等。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士でも職員とも、お互い出来ることを把握しあい、助け合えるよう環境づくりをしている。		出来ることを継続するために各担当の仕事を割り振りしている。同じうちに住んでいると遊興間を持てるように、皆で行う作業を多く提供している。調理手伝い、掃除、余暇活動。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了しても相談を受け付け、何時でも対応できることを口頭にて伝えている。実際の対応は現在ありません。		口頭での説明。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意見を尊重しケアプランにも反映させ支援できている。	毎月二回の会議での話し合い。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの意見を尊重しケアプランにも反映させ支援できている。	毎月二回の会議での話し合い。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りにもその日の言動や表情、過ごし方が分かるよう明確に記録し方向苦することも把握できている。	言動や表情など細やかなところにも注目した日常生活記録を製作している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの意見を尊重し、また、各協力医療機関からのアドバイス、職員からの意見も考慮しケアプランにも反映させ支援できている。	月二回のケース会議、医療機関との連携、家族との話し合い。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その通りに行っている。	月二回のケース会議、医療機関との連携、家族との話し合い。三ヶ月毎のプラン見直し。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その通りに行っている。		月二回のケース会議、医療機関との連携、家族との話し合い。三ヶ月毎のプラン見直し。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の要望に対し十分に対応している。		外出・外泊が円滑にできるように情報交換。状態に合わせた話掛けや対応をご家族と共に考えて対応している。寂しがるご利用者様への対応や外出したがるご利用者様への対応等。行事参加や面会等。
きるかぎりのたいう				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	その通りに行っている。		月二回のケース会議、医療機関との連携、家族との話し合い。消防・警察機関との直通電話のできるようにしている。三ヶ月毎のプラン見直し。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のご利用者内にはそのようなケースはありません。待機者への配慮としてショートステイの勧めをしたり行っています。	○	連携をとった支援をします。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のご利用者内にはそのようなケースはありません。待機者への配慮として地域包括支援センターと連携を図っています。	○	連携をとった支援をしています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		希望通りの医療機関へ受診できている。	歯科・内科・精神科に加え、マッサージも受けられるよう体制を整えています。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		専門の医療機関への受診をしています	精神科の指示を受けています。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		協力していただいている内科医への相談と現在の計画作成者が準看護師の資格を持っているため十分な健康管理が出来ている。	医療機関との連携、人員配置。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		入院時の洗濯物や身の回りのこと、本人やご家族の希望があれば支援している。又、都度、医療機関からの情報交換を行い状態把握とご家族へのアドバイスを行っている。	各医療機関との連携体制を図っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		方針を共有していると共に、段階に合わせた支援が出来ている。	医療機関との連携、ご家族との連携、入居施設空待ち体制の整備をしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		各医療機関、ご家族と共に話し合いが出来ている。又、職員とも変化に応じ話し合いが出来ている。	医療機関との連携、ご家族との連携、入居施設空待ち体制の整備をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	各医療機関、ご家族と共に話し合いが出来ている。又、速やかな対応と、不安を最小限にするよう対応している。		医療機関との連携、ご家族との連携、入居施設空待ち体制の整備をしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員に徹底させて厳守している。		日頃の声がけの見直しを行うと共に、プライバシー保護マニュアルを作成し対応している。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃からの買い物の自由、余暇活動など、小さな物事に対しても選択していただけるよう努めている。		食事メニューの選択、買い物の自由、余暇活動の選択など。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃からの買い物の自由、余暇活動など、小さな物事に対しても選択していただけるよう努めている。		食事メニューの選択、買い物の自由、余暇活動の選択、ご利用者同士の話し合いなど。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容室への通いや、衣類・化粧品等の買い物の自由と都度の付き添いを支援しています。		日頃の身だしなみに対してのさりげない声かけ・買い物への付き添いなど。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し食事提供が来ている。又、楽しみながら食事できるように、人間関係も配慮した席配置で食事をしている。		食事メニューの選択、席配置の考慮、下膳担当など。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師からの指示を受け、出来る限りの自由を認めている。		喫煙、晩酌、入浴時間、余暇活動の自由。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	日中はオムツを使用しないよう配慮し、本人の合わせたトイレ誘導をしている。また、失敗したときはさりげない声がけをし、傷付けない配慮をしている。		オムツ外し運動。さりげない声がけ。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自由に入浴してもらっている。		入浴時間の自由指定。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日、朝と夕に行うバイタルチェックのほかに、状況に合わせた計測を行い、本人も安心して休めるよう配慮した声がけも行っている。		随時のバイタルチェックと声がけ。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の趣味や、その他のやりたいことに配慮したレクリエーションや、出来るだけ多くの外出を支援している。		趣味活動支援、外出支援、レクリエーション提供。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には付き添いの職員に頼らず、出来るだけ本人がお金を持ち支払うよう促している。		レジ前での付き添い。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週二回は外出し出来ている。		ドライブ、山菜取り、散歩、祭り参加、各行事、自宅訪問など。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	常に本人の意見を取り入れ対応できている。		ドライブ、山菜取り、散歩、祭り参加、各行事、自宅訪問など。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間の制限無く面会でき、又、手紙や電話の自由を認めている。		面会時間の制限なし・手紙電話の自由。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間の制限無く面会でき、又、手紙や電話の自由を認めている。		面会時間の制限なし・手紙電話の自由。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	確実にやっている。		身体拘束の廃止運動と共に、身体拘束防止マニュアルを作成し対応しています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている</p> <p>玄関には夜間を除き常に鍵をしないよう努めている。</p>		見守りの徹底。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> <p>夜間はい一時間ごとの巡視をし、日中でも夜間でも緊急時の円滑な対応ができるように日頃から情報交換を行っている。</p>		見守りの徹底。緊急時対応研修と共にマニュアルを作成して対応している。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> <p>危険行為のあるご利用者様や危険物のある場合は、その人だけが届かないようおき場所を変えたり、周りのご利用者様と共に見守るようにしている。</p>		見守りの徹底、ご利用者への指導。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p> <p>避難訓練は現在ご利用されている方たちの状態にあわせ、非難経路、非難の仕方の指導を行っている。また、事故防止、緊急時の対応について職員と研修会議にて十分に話し合いが出来ている。</p>		研修会議、避難訓練。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている</p> <p>、緊急時の対応について職員と研修会議にて十分に話し合いが出来ている。また、AEDの設置と講習をしている。</p>		研修会議、AEDの設置と講習。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>毎年2回の避難訓練の実施と共に、近所にある消防機関との連携をとることにより出来ている。</p>		消防機関との連携、避難訓練計画のもと実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族に対し状態変化する都度報告し、ご家族とも一緒に対応できるよう配慮している。		病気への理解をしてもらうための説明。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ご家族に対し状態変化する都度報告し、ご家族とも一緒に対応できるよう配慮している。		病気への理解をしてもらうための説明と、緊急時の連絡票の作成をして対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の作用に対し研修を行い、薬剤師からのアドバイスも取り入れ状態把握や変化に迅速に対応している。		研修会議、薬剤師からのサポート。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日20分程度の運動と、医師からの指導の下に本人に合った食事提供と共に下剤調整にて対応している。		医療機関との連携、食材選び、下剤調整、適度な運動、租借状態の把握。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来るところまでの見守りと介助にて、毎食後の口腔ケアをチェック表にて確認し実施している。		見守りとチェック表による確認。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指導の下、状況把握し食事提供をしている。又、水分摂取量を記入し確実な水分補給をしている。		医師によるアドバイス、水分チェック表による確認。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	医師からの指導の下、又、マニュアルに基づき対応している。		医師によるアドバイス、マニュアル政策。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒、調理中の手袋使用等で予防できている。		常時の消毒・除菌、調理手袋の使用。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	安全で気軽に出入りできるよう、明るいイメージを求め環境を整備している。		生け花を置く、危険物の排除。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と共に皆が過ごしやすい環境を整備できるようにしている。		季節に合った飾り、プライバシーへの配慮、トイレ内の消臭スプレーの完備。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールと和室での気の会ったご利用者様との交流が出来ているほか、自由に自室に行き休めるよう配慮している。		各利用者様のレベルと相性に応じた席順を決めてコミュニケーションを図りやすくしている。また、和室完備により、ゆったりと座りながら過ごすスペースがある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを用意して頂き、居心地の 良いその人らしい居室となっている。		私物持込の徹底。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	日頃の換気と共に温度・湿度計の確認をし、それ を専用用紙にてチェックしている。		随時の換気、温度・湿度チェック表による確認。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	トイレに頻繁に行く人にはトイレに近い居室設 定、同じようなレベルの仲間と競い合いのできる ような自席設定など気持ちにも配慮すると共に、 障害となる物を置かないよう整備している。		居室選択、自席選択、危険物の排除。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	わかるまでの声がけを大切に、わかることを増 やすような工夫をした余暇活動や作業を提供して いる。		毎日継続できる作業、日課を作る。自信を持てる ように出来ることに配慮した余暇活動の提供。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の周りを利用し、作物を植えたり、花を植え たり、洗濯物を自分で干せるよう高さを調節した 物干しを駐車場に作ったりと活用している。		園芸、洗濯物の干す作業

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成21年11月1日にオープンした新規事業のソフトハンド茨島と連携し、より良いサービス行っていきます。例として広い土地を活かした園芸交流、その他の交流行事を多く企画していく予定です。